

HOSEI

Communication Magazine

3
2023



Hirose Katsuya

1958年生まれ。法学部教授。1981年東京大学法学部卒業、1983年同大学院法学政治学研究所修士課程修了、1987年同大学院同研究所博士課程単位取得退学、同年法学博士学位取得。同年法政大学法学部助教授、1995年同法学部教授。2008～2011年度総合情報センター所長、2012～2013年度法学部長等歴任。2012年度～現在学校法人法政大学評議員、2014～2020年度学校法人法政大学常務理事、2017～2020年度法政大学副学長、2021年度～現在法政大学総長。

壁を乗り越える実践知は 法政時代の経験のなかに

●巻頭言●2022年度卒業生へのメッセージ
法政大学総長 廣瀬 克哉

2022年度卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。学部を4年で卒業するみなさんは、コロナ前の学生生活と、コロナ以降の学生生活の両方を経験した最後の学年ということになります。1年生の頃の学生生活が遠い昔のことのように感じられるかも知れませんが、徐々に大学の対面での活動は以前に近づいて来ていますが、入学時に思い描いていた活動が、想定したようには実現できなかった、という経験はみなさん全員が共有されていると思います。自分自身にとってのコロナ禍の直接的な影響や、それに対する思いが様々にあることと思います。

個々人にとって特別な体験だったことに加えて、コロナ禍を大学生として経験したということは、社会全体から見ても《特別なこと》だと言えます。大学生という、相対的に自由度の高い視点で社会を見るとき、そういう立場だからこそ見えてくるものがあります。それはいつの時代でも言えることではありません。しかし、普通の時代状況のなかで大学生が社会全体を見るとき、大学生もまたその社会の中の一員ではあるにせよ、「当事者ではない立場」という自己認識が強く反映されています。それに対して、このコロナ禍を経験するという点では、大学生もまた紛れもない当事者の実感をもってこの事態を経験しています。そして、当事者でありつつ、また同時に特定の立場に限定されない視点を得やすい。そんなみなさんは、ご自身の経験と社会に生じた

HOSEI EYE

法政の「いま」をお伝えします。

創刊70周年。新たなスタートへ!

広報誌『HOSEI』2023年度から 大幅リニューアルのお知らせ!

2022年度に創刊70周年を迎えた広報誌『HOSEI』は、これから新たなスタートを切ります。これまで、在学生の保証人の皆さまを中心に愛読いただいた広報誌ですが、在学生の皆さまにも読んでいただけるよう、学生の興味・関心に寄り添い、より有益な紙面づくりを目指してまいります。2023年度から記事のテーマや内容、デザインを大幅に刷新します。ぜひご期待ください。

2023年度より、広報誌『HOSEI』の年間発行回数は8回から6回に変更します。リニューアル第一弾の4・5月号は2023年4月下旬に発行予定です。在学生の保証人宛てに冊子を発送する他、デジタルブックを大学ウェブサイトや大学公式SNSアカウントで公開します。ぜひSNSアカウントのフォローをお願いします。

1 point

学生の興味・関心や
トレンドを意識した、
記事のテーマ設定、
内容、デザインに刷新!

2 point

スマホでも
読みやすい!
デジタルブックを導入!

3 point

特集企画は
一つのテーマを深掘り!
新しい発見やアクション
のきっかけを提供!

4 point

誰でも見やすい
記事づくりを目指し、
UD (ユニバーサルデザイン)
フォントを本文に使用!



大学ウェブサイト
<https://www.hosei.ac.jp/>



大学公式 Twitter
https://twitter.com/hosei_pr



大学公式 Instagram
https://www.instagram.com/hosei_university/

■デジタルブック公開日

号	デジタルブック公開日(予定)
4・5月号	2023年4月下旬
6・7月号	2023年6月中旬頃
8・9月号	2023年7月下旬頃
10・11月号	2023年10月中旬頃
12・1月号	2023年12月上旬頃
2・3月号	2024年3月上旬頃

※デジタルブックの公開日は前後する可能性がありますのでご了承ください。
※冊子の発送はデジタルブック公開の約1週間後を予定しています。
早くご覧になりたい方は、デジタルブックをご覧ください。

HOSEI 3 Contents

communication magazine 2023

- 02 HOSEI EYE 創刊70周年。新たなスタートへ!
広報誌『HOSEI』2023年度から大幅リニューアルのお知らせ!
- 03 巻頭言
2022年度卒業生へのメッセージ 法政大学総長 廣瀬克哉
「壁を乗り越える実践知は法政時代の経験のなかに」
- 04 2023 Graduation 卒業 学生生活を振り返って
- 09 ご卒業される皆さんへ
- 10 総長と語る 私たちの国内留学
- 12 卒業生インタビュー
「自分をさらけ出し、小さい成長を重ねていくそれが私らしい生き方」
合同会社Asante Sana 代表社員 河野 理恵さん
- 14 ESSAY
「調査を通じた人事管理制度と労働者意識の解明」
キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科 教授 佐藤 厚
- 16 HOSEI PHRONESIS VOL.50
「アフリカ遊牧民の家計調査を通じて 開発途上国の貧困問題に取り組む」
経済学部国際経済学科 教授 池上 宗信
- 18 MY CAMPUS, MY LIFE
デザイン工学部システムデザイン学科メカニズムデザイン研究室
(山田泰之准教授研究室) / かるた会
- 20 Message 「東日本大震災から12年が経ち」
法学部政治学科2年 磯網 巴さん
(市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ「チーム・オレンジ」代表)
- 21 THE SCENE VOL.142 相撲部
- 22 後援会だより「親子でつづる法政の4年間」 「2022年度法政大学後援会表彰」
- 26 HOSEI ミュージアム VOL.032
「『大造じいさんとガン』の作者 椋鳩十と法政大学」
- 27 校友会だより
- 32 HOSEI TOPICS
- 34 自由を生き抜く実践知大賞
2022年度(第6回)「自由を生き抜く実践知大賞」表彰式を開催しました
- 35 BOOKS
- COVER 多摩キャンパス 撮影: 田中伸弥
現代福祉学部棟の前にある芝生の広場は花見の穴場スポットで、桜を見ながらランチタイムを楽しむことができます。遠くには経済学部棟も見えています。

学生生活を 振り返って

卒業

全15学部の卒業生たちに、
大学生活で学んだことや
将来への抱負を語ってもらいました。



法学部
国際政治学科
グローバル・ガバナンスコース
本多美樹セミ
田中美海

Tanaka Minami

我が母校、 法政大学に感謝を込めて

高校時代、心身のバランスを崩して中退を経験した私は、自信を完全に失い、未来への展望を持たないまま大学に入学しました。ところが文学部史学科の素晴らしい環境の中、日本史および世界史の知識習得にこそしみ、法学部への転部後は現代国際社会の仕組みを多角的に学んだことで、学びの楽しさを思い出すことができました。さらに、成績優秀者および末延財団の奨学生に採用していただいたことで自信が付き、将来は自身の能力を最大限に発揮して社会に貢献できる仕事がしたいと考えるようになりました。

卒業後は、東京大学の法科大学院に進学し、予備試験および司法試験合格を目指します。法曹資格を取得した後は、国際金融の知識と語学力を生かし、弁護士として健全な国際投資環境の整備に貢献したいと考えています。最後になりますが、ご助言いただいた先生方や職員の方々には大変感謝しています。ありがとうございました。



文学部
哲学科
君嶋泰明セミ、
安孫子信セミ3年次
下川原 絢菜

Shimokawara Ayana

哲学科での経験

哲学科での4年間はとても充実していました。入学当初は勉強に対してあまり意欲的になれずに過ごしていましたが、哲学科の授業をきっかけに自分の力で考えることの大切さや楽しさに気づき、前向きに取り組むようになり、成長することができました。

ゼミでは難解な文章を自分なりに解釈することに毎回苦戦しましたが、それによって粘り強く取り組む力が身に付きました。また、自分の考えだけでなく、他の人の違った考えを聞くことも面白く、刺激的でした。

他にも、友人との出会いや印象深い講義、そしてサブゼミなど思い出は挙げ切れませんが、これらがあったからこそ今の自分があるため、哲学科に入っただけ良かったと思っています。ここでの経験を大切に、この先も自分で考えることをやめずに生きていきたいです。

最後に、安孫子先生・君嶋先生をはじめとした教職員の皆さま、友人、そして法政大学に通わせてくれた家族に心より感謝いたします。



経済学部
経済学科
山田快セミ
柴田 祐紀

Shibata Yuki

一期一会に恵まれた 大学生活

大学生活ではさまざまな人に出会い、多くの学びを得ることができました。ゼミでは、「コロナ禍でアスリートがいかにもモチベーションを維持するかに」について仲間とディスカッションした結果、視野と考えが広がりました。

特に力を注いだ馬術部の活動では、馬以外に、この先の自分の可能性を広げてくれる人たちと出会う機会に恵まれました。試合に出場するだけでなく、活動先の地域をはじめ、馬に携わる方々とながら、楽しみを共有できたことは、何にも代え難い財産です。幼い頃から馬と触れ合い、大学での経験も経て、馬と関わりながら人の役に立てる職に就きたいと心から思うようになりました。卒業後は、夢であった馬と協働して儀式を執り行う国家公務員になります。大学生活を支えてくれた教職員の皆さま、馬の提供や支援をいただいている関係者の方々、パートナーである愛馬たち、そして家族に感謝し、社会での活躍を通して恩返ししていきたいです。



社会学部
社会学部(地域・社会コース)
宇野亮セミ
岡本 昂大

Okamoto Kodai

4年間の 学生生活を振り返って

学園祭実行委員会とゼミ活動を通して、さまざまな人と関わり合い、実りある学生生活を送ることができました。

実行委員会の活動の中で、最も印象に残っているのは2年次だった2020年、コロナ禍での学園祭運営です。当時の私は装飾のチームリーダーでした。例年通りの活動はできませんでしたが、友人や先輩からアドバイスを受け、オンラインでも積極的にメンバーと関わるようにしました。どうにか学園祭をやり切った時は、非常に大きな達成感を得ました。対話を行い、自ら行動を起こした経験は自分の中で大きな糧になっています。

ゼミ活動では、卒業論文や個人研究の際に、教授から問いの立て方や問題へのアプローチの仕方などに対するアドバイスをいただき、非常に身になる勉強ができました。教職員の皆さま、友人や家族など多くの人に支えられた4年間に大変感謝しています。この経験を無駄にせず、より精進していきます。



経営学部
経営戦略学科
金谷度セミ
藤居 花菜

Fujii Kana

学び、 実践する力

私は、法政大学で「学びを継続し、それを実践する力」を身に付けました。経営学部での授業やゼミ活動を通して、アカデミックな知識を習得しただけでなく、これまでの経験を生かし、奨学金をいただいて自分のビジネスを手掛け始めました。

机上で理論を学ぶだけでなく、自分で機会を勝ち取り、ビジネスチャンスにつなげることができたのは、法政大学の学びに対する真摯なサポートのおかげだと感じています。

私には、ビジネスを通して世界中の人に新たな喜びや楽しさを与えるために、将来は起業するという目標があります。私のように学生時代から起業に関心があり、知識や経験を十分に積み重ねたい人にとって、法政大学は最高の環境です。

学生は、誰もが同じように学びの機会を与えられています。在学生の方には、学び続けて実践することで、他の人とは違う経験や将来の夢への一歩を踏み出してほしいと思います。



国際文化学部
国際文化学科(国際社会コース)
佐々木 恵(セ)ミ
中田 雄真

Nakada Yuma

「これから」の支えになる4年間

国際文化学部で学んだ4年間は、自分にとってかけがえないものになりました。中でも印象に残っているのは、ゼミでの活動です。歴史的な視点を持って、国際社会にまつわるトピックを学び、ゼミ内で議論し、考えを深めていきました。

3年次の秋学期には、共同論文の執筆に取り組みました。私が所属するゼミでは、学会に向けて3年次の全員が協力して研究を進め、共同論文を1本執筆します。ジャズの流行と若者の関係を考察した私たちの論文は、難航しつつも、無事に完成しました。私は周りに助けられてばかりでしたが、この経験を通じて一つの目標へ向かって協力する意義を学びました。

法政大学で過ごした日々で得た学びや経験は、社会人になっても私を支えてくれると思います。充実した大学生を送ることができたのは、教職員の皆さまや友人、家族など周囲の方々の助けがあったからこそです。本当にありがとうございました。



キャリアデザイン学部
キャリアデザイン学科
佐藤 恵(セ)ミ
河村 茉実

Kawamura Mami

自分自身と向き合い続けた4年間

大学での4年間は、ひたすら自分自身と向き合い続ける日々でした。

1年間かけて働くスキルを身に付けることができるキャリア体験学習の授業では、企業と提携し、営業活動を体験しました。昔から人と話すことが好きで、「コミュニケーションを取りながら進める仕事がしたい」と思っていたため、授業を通して自分に適性があるのを見極めることができました。

ゼミ活動では、常識を疑うことをテーマに社会学を学び、多角的な視点で物事を捉える力を身に付けました。また、さまざまな集団に属したことで、異なる側面を持つ自己についての理解を深めることができました。

キャリアデザイン学部は人生を設計する力を養える場所です。今後も自分と常に向き合い、試行錯誤しながら成長していきたいと思えます。大学生生活を豊かにしてください。佐藤恵先生をはじめ、教職員の皆さま、支えてくれた家族、友人に心から感謝申し上げます。



人間環境学部
人間環境学科(人間文化コース)
佐伯 英(セ)ミ
水嶋 夏洋

Mizushima Kayoh

多様な学びができ、支援を受けられる環境

人間環境学部は法学、経済学、エネルギー学やジェンダー学など非常に幅広い分野を学ぶことができるため、明確に学びたいことが定まっていなかった私にとって、これ以上ない環境であったと感じます。

ゼミではジェンダーに関する多種多様な議論を行い、同じテーマに関心を持つメンバーと意見を共有する楽しさを体感しました。日常で話す機会が少なく、社会に出てからでは深く考える機会がないテーマだと思ったので、貴重な経験ができたと感じています。

就職活動ではとても手厚い支援を受けました。キャリアセンターの個別相談を利用した回数は数え切れませんが、どの職員の方も私の疑問や不安を解消してくださり、心の支えになってくださいました。

これからは、大学での経験を糧に社会で活躍していきます。学生生活をサポートしてくださった教職員の皆さま、友人、家族には心より感謝申し上げます。



G I S(グローバル教養学部)
グローバル教養学科
福岡 賢(セ)ミ
池田 桃子

Ikeda Momoko

私の可能性を広げてくれた4年間

英語で学習することを志して入学した当初は、同級生との語学力の差を痛感し、電子辞書を肌身離さず持ち歩いていたことを覚えています。しかし、年次が上がるにつれて英語での授業にも慣れ、G I Sの学際的なカリキュラムでさまざまな分野の授業に挑戦し、自分の興味を明確にすることができました。

ゼミ活動では国際経営の分野を専攻しました。プレゼンテーションやマーケティングコンテストへの出場など、アウトプットの実践経験で得た知識を自分のものとし、専門性を高めることができた実感しています。

コロナ禍の厳しい状況で学部やサークルの友人に恵まれたことも、大学生生活を豊かにしてくれたかけがえない財産です。4年間で得た学びと培った友情を支えに、次のステージへとまい進していきます。

最後に学生生活を支えてくださった福岡教授、教職員の皆さま、友人、そして家族に心より感謝申し上げます。



現代福祉学部
臨床心理学科
金築 優(セ)ミ
平田 優希奈

Hirata Yukina

「学び続けること」と「人とのつながり」

心の専門家を夢見ていた私の大学生活は、未知のウイルスによってさまざまな制限が課され、学生らしい生活とは言いなかつたかもしれせん。しかし、そうしたコロナ禍の制限の中でも、講義や実習では主体的に学び続ける大切さを学びました。

そんな環境下でのゼミ活動は、友人と話したり、交流したりできる唯一の時間でした。その時間を大切にしてくれる先生だったからこそ、人間らしい温かなつながりを築き続けることができました。

人と距離を保たなければならぬ大学生生活でしたが、人と人、心と心の温かなつながりが幸せを生むことを教えられた4年間でした。次は、私から心のつながりが多くの人へ紡がれるよう、全ての人のWell-beingを願って大学院での学びを深めたいと思います。

学びを豊かにしてください。金築先生をはじめ教職員の皆さま、支えてくれた友人、家族に心より感謝申し上げます。



スポーツ健康学部
スポーツ健康学科
(ヘルプデザインコース)
木下 訓(セ)ミ
須崎 涼風

Suzaki Ryoka

学び、挑戦できた4年間

振り返ると、さまざまなことに挑戦できた4年間でした。ゼミでは、運動生理学やスポーツ医学を学び、木下教授のおかげで学会でも発表できました。学んだ知識や考え方は、今後の人生において私の強みになります。

部活動では、陸上競技部の学生トレーナーとして活動し、さまざまな経験を積みました。最後の箱根駅伝では、けがで苦しんだ同期を送り出すことができ、彼が鶴見中継所から走り出した時の感動は一生忘れません。素晴らしい選手の皆さんをトレーナーとしてサポートできたことを誇りに思います。

スポーツ健康学部は、頑張れる環境があります。ゼミ後輩の皆さんも好きなことに打ち込み、たくさん挑戦してほしいと思えます。

最後に、私の充実した学生生活は、木下教授、刈部監督、坪田監督、鵜田さんをはじめとした教職員の皆さま、陸上競技部、そしてスポーツ健康学部の仲間のおかげです。この場を借りて、心より感謝申し上げます。



情報科学部
コンピュータ科学科(情報システムコース)
プログラミング言語研究室
(佐々木晃研究室)
宮脇 亮太

Miyawaki Ryota

将来につながる 4年間

大学生活では、主体的に行動することや周囲の人間を頼ることの大切さを学びました。

友人や先輩に誘われ、学部生のピアサポート団体である「ガラス箱オフィスアワーセンター(GBC)」に所属。2年次にはチームリーダーとして学生向けに勉強会を開催しました。リーダーとして一つの企画を進める経験は初めてでしたが、明確な目標を定めてメンバーと綿密な連絡を取ることで、開催に至りました。勉強会に参加した学生から好評だったことで、達成感も得られました。

卒業研究では、人の動きのシミュレーションについて研究し、課題を解決する力を養いました。プログラムの設計や実装でつまずいたこともありましたが、担当の先生や研究室のメンバーに相談し、的確な助言を得られたおかげで問題解決に向けて努力を続け、学会での発表につながることができました。貴重な経験をさせていただいた大学と、それを支えてくださった教職員の方々に、友人たちに感謝申し上げます。



生命科学部
環境応用化学科
高分子化学研究室
(杉山賢次研究室)
渡邊 歩輝

Watanabe Itsuki

コロナ禍で より一層感じたつながり

私の大学生活は、急速に拡大した新型コロナウイルス感染症によって、入学当初に想像していたものとは大きくかけ離れてしまいました。授業はオンラインになり、友人に会う機会が減るなど、さまざまな影響を及ぼしました。急変した生活やコロナ禍の不安により、一時はふさぎ込み、学習意欲も失ったこともありましたが、オンライン授業中に友人たちと電話をつないで質問し合い、対面授業に近い雰囲気をつくることで、再び学習意欲を向上させることができました。

4年次に進級するようやく、ほぼ通常通りの生活に戻り、ゼミでの活動も始まったので、最後は充実した1年を過ごせたと思います。ゼミでは発表者の順番決めや司会進行を務めるゼミ長に従事しましたが、物事をまとめることが苦手な私が全うできたのも、友人や先輩、教授の支援があったからです。

大学卒業まで私を支えてくれた皆さま、そして家族に感謝申し上げます。



デザイン工学部
建築学科
建築都市環境研究室
(川久保俊研究室)
小酒部 玲

Osakabe Rei

学びは無限であると感じた 大学生活

デザイン工学部に入学した当初は、工学やデザインに関する知識を中心に学ぶ学部だと思っていました。実際は幅広い分野に関する講義がありました。特に「建築フォーラム」という講義は、多方面で活躍する方々の話を聴く機会もあり、刺激的で多くのことを吸収できたと感じています。大学に入学する前は学んだ知識を蓄えるのみでしたが、設計や制作を通してアウトプットすることの大切さを学び、その能力を伸ばすことに励み続けた4年間だったように思います。

コロナの流行という未曾有の事態も起きました。デザイン工学部は制作物も多く、対面での授業が不可欠です。少人数制の対面授業とオンライン授業の併用を円滑に行えるよう配慮いただきました。不便を感じることなく大学生活を送れたこと、関係者の皆さまには深く感謝申し上げます。4月から大学院へと進学します。無限にある学びをさらに深め、社会に還元できるように進みます。



理工学部
創生科学科
学際宇宙セミナー
(田中幹人ゼミ)
勢 彩希

Seshime Saki

大学での学びを、 未来へつなぐ

法政大学で過ごした日々は、好きなことにとことん打ち込むことができた、最高の4年間でした。私は、最も古くからある学問でありながら、未知の事柄も多い「天文学」に引かれ、創生科学科に入学しました。1年次から2年次にかけては天文サークルでの活動に熱中するとともに、実験や物理学の授業を通して研究手法や考え方を学びました。

3年次の夏には、入学時から希望していた研究室への配属が決まり、大変うれしかったことを覚えています。自分と同じように天文学が好きなゼミ生と出会い、お互いに励まし合った研究生活は、私にとってかけがえのない財産となりました。

卒業後は宇宙開発系の会社に入社します。4年間取り組み続けた「宇宙」に関わる仕事を精一杯頑張ります。最後に、ご指導いただきました田中先生はじめ教職員皆さま、苦楽を共にしたゼミ生や友人、全力で研究を応援してくれた家族に心より感謝申し上げます。

ご卒業される皆さんへ

晴れてご卒業の日を迎える皆さん、おめでとうございます。後輩の就職活動支援や卒業生ネットワークづくりのための情報入力にご協力ください。卒業後の証明書は、郵送や窓口での申請に加え、オンラインでの申し込みもできますので、必要に応じてご利用ください。なお、ご提供いただいた個人情報につきましては個人情報保護法などの法令を順守し、適切に取り扱います。

「進路報告」および「就職活動体験記」入力をお願い

卒業後の進路について、キャリア就職システムへの登録をお願いいたします。卒業後は、自身の登録内容を更新することができなくなります。就職や進学その他、留学される方、現時点で進路が未定の方も含めて、卒業される全ての方に入力していただいています。法政大学情報ポータルサイトからキャリア就職システムにログインし、「進路報告」をしてください。また、「就職活動体験記」の入力も、ご協力をお願いいたします。進路報告は、文部科学省などへの統計調査の基礎データとして使用するとともに就職状況などの分析を行い、本学の就職支援の強化を図るために利用します。また、就職活動体験記の内容は、先輩の就職活動の経験を後輩へ伝えるための貴重な財産として活用いたします。

卒業生の住所等連絡先の登録について

学校法人法政大学と卒業生（各付属高校卒業生から大学院修了生まで）との連絡を密にする目的で、卒業生のデータ整備を進めています。転居、改姓、転職をされた際には下記の要領で大学までご連絡をお願いいたします。

●インターネットによるご連絡

- ① 大学公式サイト「卒業生の方へ」をクリック
 - ② 「卒業生の連絡先の変更」をクリック
 - ③ 申請フォームにアクセス
https://www.hosei.ac.jp/hosei/renkei/oranenet/sotsugyo_db/
- 卒業生の個人情報の取り扱いについては、以下URLページをご参照ください。
<https://www.hosei.ac.jp/privacy/sotsugyo/>

卒業後の証明書申請について

各種証明書（卒業証明書、成績卒業証明書など）は、パソコンやスマートフォンなどからアクセスすることで、国内外を問わず、24時間いつでもオンライン申し込みをいただけます。詳しい手続きは、大学公式サイトをご覧ください。
※2022年度卒業生は3月24日（金）まで本システムから卒業証明書、成績卒業証明書の申請ができません。卒業日より前に証明書発行申請をするには予約手続きが必要です。手続き方法は所属からの案内に従ってください（予約手続きには期限があり、所属により異なります）。
※オンライン申し込みには、別途所定のシステム利用料が発生します。
※オンライン申し込みでは発行できない証明書もあります。

問い合わせ先

キャリアセンター市ヶ谷事務課
☎03-3264-9604

法政大学情報ポータルサイト

<https://www.as.hosei.ac.jp/>

キャリアセンターウェブサイト

<https://www.hosei.ac.jp/careercenter/>

連絡先

法政大学卒業生・後援会連携室

☎03-3264-9230

E-mail: koyu@hosei.ac.jp

卒業生住所等変更申請フォーム



注1) 大学へ登録されるデータは、各種卒業生組織が管理するデータとはリンクしていません。卒業生組織へ加入している方は、それぞれの事務局へも各種変更のご連絡をお願いいたします。注2) 卒業生データの登録は、必ずご本人の責任のもとでお願いします。

証明書の申請方法について



かけがえのない
出会いに感動

関西大学

寮 の友人たちと鍋を囲んだことが印象に残っています。寮には国籍の異なる外国人留学生が多く、それぞれ好きな食材を投入したので、ここでしか味わえない特別な多国籍鍋になりました。日本にいながら、こうした国際交流が図れる点においても関西大学は魅力的な大学でした。

— 伊藤琴乃さん

英 語、中国語、日本語が飛び交う寮生活で、初めはうまくコミュニケーションを取れず、もどかしさを感じていましたが、いつしか大切な友達になりました。大阪出身の寮生が主導でたこ焼きパーティーを開催したことも。関東と関西のギャップを感じながらの異文化交流はいい思い出です。

— 吉川瞭子さん



法政大学の
ここが好き

法政大学

法 政大学市ヶ谷キャンパスの校舎は建物一つ一つが新しく清潔感があります。自習室など、1人で落ち着ける空間がいくつもあり、ゆっくりとした時間を過ごすことができました。日が暮れてからボアソナード・タワーの26階に上がってみたら、遠くまで見渡せる街並みの夜景がとてもきれいで、印象的でした。

— 櫻井萌乃香さん



座談会の本編は
大学ウェブサイトにて
公開中!

左から、櫻井萌乃香さん、廣瀬克哉総長、伊藤琴乃さん、吉川瞭子さん

国内大学との学生交流制度（国内留学）の概要

協定大学	【北海道】北海学園大学（法学部のみ） 【大阪府】関西大学 【沖縄県】沖縄大学・名城大学
派遣期間	1年または半年（春学期、秋学期いずれも可能）
参加資格	本学に1年以上在籍し、派遣年度に2年次以上の学部生
募集人数	各大学ともに若干名
対象学部	派遣大学によって異なります
履修できる単位数	派遣先の大学との協定書および覚書によって定められます
単位認定	派遣先の大学で修得した単位は法政大学の単位として認定 ※認定できる科目・単位は、各所属学部により異なります

2024年度の募集および募集説明会については2023年11月頃に実施予定（大学ウェブサイトおよびウェブ掲示板にて案内します）。2023年度の対象学部など、詳細は大学ウェブサイトにてご確認ください。



2023年度対象学部

【問い合わせ先】

学務部学務課 TEL.03-3264-9320
<https://www.hosei.ac.jp/info/article-20221031091733/>

総長と語る 私たちの国内留学

勇気を出したからこそ
得られた貴重な体験

法政大学は、学生の多様な学び体験の機会を創出するため、北海道、大阪府、沖縄県にある協定大学を対象に、学生交流制度（国内留学プログラム）を実施しています。この制度では、半年または1年の間、留学先となる他大学に通って学び、修得した単位は法政大学の単位として認定されます。



座談会は市ヶ谷キャンパス ボアソナード・タワーの会議室で開催し、終始和やかな雰囲気で行われました

●伊藤琴乃さん

（法政大学法学部法律学科3年）
関西大学法学部法政治学科に在籍（2022年度春学期）

●吉川瞭子さん

（法政大学現代福祉学部福祉コミュニティ学科2年）
関西大学人間健康学部人間健康学科福祉と健康コースに在籍（2022年度春学期）

●櫻井萌乃香さん

（関西大学法学部法政治学科3年）
法政大学キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科に在籍（2022年度秋学期）

1月19日（木）、関西大学との国内留学プログラムに参加した学生と廣瀬克哉総長による座談会を開催し、3人の学生が国内留学に申し込んだ動機や、留学で得られた経験、思い出を語り合いました。新たな友人との出会いや、自分の大学との学びの違いなど、新鮮な驚きを体験した3人。「新しい発見の連続で、視野が大きく広がりました」と国内留学の魅力を語ります。

が外国人留学生という環境に「日本にいながら、充実した異文化交流ができたことが一番の収穫です。料理のできない私でしたが、寮生みんなで助け合えたので何も不自由を感じませんでした」と笑顔で語る伊藤さん。吉川さんも「キャンパスでは気さくに声を掛けてくれるクラスメートと過ごし、寮では異文化体験と、刺激的な毎日でした。最後は東京に帰るのが惜しいと思うほどでした」と思い出を振り返ります。

関西大学から法政大学に留学してきた櫻井さんは「市ヶ谷キャンパスの校舎は、関西大学とは全く違う雰囲気でした。国内留学で来た学生という存在が珍しかったのか、温かく接してもらえました」と印象を語ります。

留学先で得た体験は、学生たちをひと回り成長させていました。

大学ウェブサイトにて公開中の本編もぜひご覧ください。



座談会の全文記事は、
大学ウェブサイトをご覧ください。
<https://www.hosei.ac.jp/pickup/article-20230208153411/>





HOSEI
Graduate Interview
卒業生
インタビュー

自分をさらけ出し、小さい成長を重ねていく それが私らしい生き方

合同会社Asante Sana 代表社員

河野 理恵さん

就職活動で「60連敗」という人生初の挫折を味わい、自分を見失ってしまった河野理恵さん。中途半端なプライドを捨て、思い切って一步を踏み出してアパレルブランドを立ち上げた経験から、「誰でも自分の人生を変えることができる」と言います。

このページでは、法政大学憲章の「自由を生き抜く実践知」を体現している本学の卒業生を紹介していきます。

カラフルで個性的な服を
一歩踏み出すきっかけに

ケニアで、アフリカ布のアパレルブランド「RAHA KENYA (ラハ・ケニア)」の代表を務めています。アパレル経験も経営知識もゼロでしたが、以前の自分なら絶対に選ばない、個性の強いアフリカ布で仕立てた服を着た時、変わりたいという私のスイッチが入ったのです。

ブランド名の「ラハ」はスワヒリ語の「Be happy」。アフリカのエネルギーが詰まったカラフルな服や小物を、一歩踏み出すきっかけにしてほしいという思いを込めています。

日本とケニアでは「普通」の基準が必ずしも一致しないため、最初のうちはテラーさんに何度もやり直しをお願いしました。日本の普通を強制したくはないけれど、アフリカ製は品質が低いと思われたくない。そういう気持ちをきちんと言葉にして伝えたことで、テラーさんとの信頼関係が深まり、



個性的な色・柄のアフリカ布。膨大な数の中から、河野さんが「一歩踏み出すきっかけ」にふさわしいものを選んでいる

お互いに成長できたと感じています。一歩踏み出すきっかけをより多くの方に提供したいと思い、安心してケニア滞在を楽しんでいただけのゲストハウスを昨年末にオープンし、好評の現地プログラムも種類を増やしました。アパレル事業には時間と費用という課題が付き物ですが、事業の柱を増やすことで、妥協のないラハ・ケニアらしい商品を提供していきたいと思っています。

就職活動の挫折から キャリア迷子に

大学にキャリアデザイン学部が開設されたのは、私が高校1年生の時でした。未知の学部とあって同級生が敬遠する中、経営・文化・教育について幅広く学べるところに魅力を感じ、迷わずその学部に進学。自由な校風が私にはとても合っている、会社のトップの話聞ける授業や企業インターンシップなど



現地プログラムの一つ、学生・社会人向けの1週間のインターンシップでは、製作から販売までを体験できる(今回は8月開催予定)

もあって、キャリアデザイン学部を選んで本当によかったと思いました。学生時代に力を入れたのは、アルバイトです。ものづくりに興味があって、1日単位の工場アルバイトにもよく行きました。パチンコ台の組み立てを経験したことも。作業を覚えるコツが身に付いた一方で、仕事1人から与えられた作業をこなせばいいという勘違いをしてしまったのも事実です。

漠然と大企業のキャリアアウーマンになりたいというイメージだけで臨んだ就職活動は、リーマンショックの影響による求人数減少もあって60社連続で選考落ち。すっかり自信をなくし、最終的に就いた介護職も1年で辞めてしまっなど、「キャリア迷子」の状態に陥ってしまいました。

卒業4年目に派遣社員からの正規採用で念願の「丸の内OL」になれましたが、喜べたのは1年目だけ。そこでようやく、世間体ばかり気にしている、空っぽな自分に気付いたのです。

今できることを探し、 自分を飾らずにさらけ出す

夫が海外で起業したためケニアに移住し、会社や世間から切り離されて、初めて自分の存在意義を意識するようになりました。自信を持てず、仕事も続かなかった私が大きく変わったのは、

考え方と周囲への接し方を180度切り替えたからです。

まず、「でも」「だって」とできない(やらない)理由を口にするのをやめ、今できることを探すようにしました。どんなに小さいことでも、うまくいくと成長を感じられるもの。今も、日々小さな成長をかみしめることが、私の原動力となっています。

そして、変なプライドで自分を強く見せるのをやめ、弱い自分をさらけ出すようにしました。その方が、周囲が教えてくれる、協力してくれると分かったからです。経営者に向いているとは思いませんが、周囲を巻き込んで思いを形にしていける立場も悪くない、そう考えられるようになりました。

自分の人生を変えられるのは 自分だけ

「就活落ちこぼれ」の一人として、これから社会へ出る後輩の皆さんに伝えたいことがあります。日本では、無意識のうち人のために、あるいは周囲がどう思うかを考えがちですが、ぜひ自分と向き合って、自分の気持ちに素直に行動してください。歩んでいるのは自分の人生であり、自分の人生を変えられるのは自分だけです。

自分のやりたいことが分からないという人は、「何をやりたいのか」「何が

できるのか」と自分に問いかけ続けることから始めてみてはどうでしょう。そういう意識を持ち続けていけば、同じ行動をしても、感じることで、考えることが変わってくるはずですよ。

また、失敗が恐くて一歩を踏み出せないという声もよく聞きますが、踏み出した先にあるのは、失敗ではなく進歩だと考えてください。「あの方法ではうまくいかない」と分かることだけが収穫です。踏み出すたびに、経験も情報量も増えていきます。

世の中も人も変化していくもの。私も自分に問いかけ続け、常に考えをアップデートし、不安なときは原点に立ち返って、これからも自分らしく生きていきたいと思っています。

Kawano Rie



1987年神奈川県生まれ。法政大学女子高等学校からキャリアデザイン学部に進学。2010年3月に卒業後、介護職、アルバイトなどを経て、大手不動産会社に勤務。2018年2月に夫の起業先であるケニアへ移住し、12月にアパレルブランド「RAHA KENYA (ラハ・ケニア)」を立ち上げる。2022年に『踏み出す一歩は小さくていい』を出版。

ラハ・ケニアのウェブサイト: <https://rahakenya.com/>
(現地プログラムの情報も掲載)





調査を通じた 人事管理制度と労働者意識の解明

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科 教授 佐藤 厚

私の専門領域は、産業社会学（特に社会調査）をベースにした人的資源管理論

です。組織と労働者を対象にアンケート調査およびインタビュー調査を実施し、そこで得られた量的および質的データの分析を通じて、組織が人材をどのようにマネジメントしようとしているのか、またそこで働く労働者がどのような意識を抱きつつ仕事に従事しているのか、を明らかにするのが私の主たる研究スタイルです。

人的資源管理論とは

よく経営資源として、ヒト、モノ、カネの三つが挙げられますが、人的資源管理論はこのうちヒト＝人的資源を研究対象にしています。組織とは、目標達成に向けて複数の人々が協働する装置のことですから、組織の目標実現には個人の協

力が欠かせません。

企業組織の場合、目標達成に向けた労働者の有効活用が必要となります。他方で、働く人の多くが雇用労働者になった現代社会では、人は企業組織に雇用されることを通じて生計を維持しています。そこには、企業組織の目標実現には労働者が欠かせないと同時に、労働者も生活維持のために雇用先企業を必要とするという相互の依存関係が形成されます。その一方で、企業と労働者の関係は、企業側はコスト効率を追求し、労働者側は賃金の上昇を希望するといった相互対立的要素を含むものでもあります。

つまり企業と労働者とは相互に依存する側面を持ちながら、相互に対立する側面も持っているという二重の相互関係にあるわけで、この両者の調整とバランスが極めて重要な課題となります。その意

味で、こうした二重の相互関係を前提に、企業と労働者の双方のニーズをいかに充足させながらマネジメントするかが、人的資源管理論の主たる研究課題となるわけです。

私の専門領域と研究スタイルは、大学の指導教授の影響によるものです。縁あって労働関係の研究機関に就職し、大学に移ってからほぼ同じ専門領域とスタイルで研究を行ってきましたが、その中から二つの研究成果を紹介したいと思います。一つ目は、仕事に裁量性のあるホワイトカラーの労働時間管理の研究、二つ目は、ホワイトカラーのキャリア形成の国際比較研究です。

ホワイトカラーの労働時間管理の研究

ホワイトカラーの労働時間管理において「仕事の裁量性」に焦点を当てたのは、



事業場外労働や裁量労働の「みなし労働時間制」（実際に働いた時間の長さではなく、あらかじめ規定したみなし労働時間数による労働時間制度）の在り方が、当時大きな政策課題になっていたためです。いずれの労働タイプも労働法の概念ですが、1990年代の初めごろ、仕事に裁量性や不規則性があるホワイトカラー労働の増加を背景に、「9時〜5時プラス残業時間」という画一的な時間管理制度の適用がなじまない労働者への関心が高まっていました。

保措置のバランスをどう取るかを巡って、私も公益委員として参加している厚生労働省の労働政策審議会で、今も審議が行われています。

ホワイトカラーのキャリア形成の国際比較研究

二つ目のホワイトカラーのキャリア形成の国際比較調査では、日本、英国、ドイツの3国のホワイトカラーを対象に、キャリア形成のベースとなる職業教育訓練制度の仕組み、職業資格の位置付け、企業内キャリアの仕組み（採用、配置、異動、昇進など）、そして自律的キャリア意識（自分のキャリアを自分で考え、構築する意識）を枠組みにした調査を実施しました。日本の特徴に注目すると、次の4点を指摘できるとしています。

第一に、教育プログラム別に見た学生割合でも、また職業教育訓練への公的コミットメント（GDPに占める積極的労働市場政策への公的支出の割合）でも、職業教育訓練の比重はドイツが最も高く、日本は最も低い結果となっています。また、職業資格がキャリアアップに役立つと考えるホワイトカラーの割合は、ドイツが最も高く、日本が最も低い。総じて一般教育の比重が大きく、職業教育訓練の比重の小さいことが日本の特徴と言えます。

第二に、内部労働市場（企業内に存在

している労働市場）の指標の一つである転職者割合は、英国が最も高く、日本が低い、勤続年数は英国が最も短く、日本が最も長い。これらの結果から、スキルやキャリアの形成に際して特定企業への依存度、つまり内部労働市場への依存度が高いことを日本の特徴として指摘できます。

第三に、新卒採用に注力する、あるいは会社主導の配置・異動を行うと回答したホワイトカラーの割合は、日本が最も高い。また組織内キャリア（異動）の幅を示す複数職能経験者割合は日本が高く、昇進選抜時期は日本が最も遅いという結果となっています。日本の人事管理制度の特徴は会社主導の人材開発システムにあるとよくいわれますが、それが当てはまる結果と言えるでしょう。

第四に、ここが重要なのですが、自律的キャリア意識は英国が最も強く、日本が最も弱いと言えます。

これらの国際比較調査結果は、会社主導の要素が強く、他方で労働者主導の要素が弱いという日本の人事管理制度の特徴を示唆していると思います。

私の所属するキャリアデザイン学部の教育理念は、自律的キャリア意識を持つ人材と他者のキャリア支援を行える人材の育成です。ここで紹介した二つの研究結果は、その必要性を示すものと言えるでしょう。今後も人的資源管理論を通じてキャリア教育の進展に向けて努力していきたいと思えます。



Sato Atsushi

1957年生まれ。2003年法政大学大学院博士課程修了（社会学博士）。1990年独立行政法人労働政策研究・研修機構主任研究員、2004年同志社大学大学院総合政策科学研究科教授。2008年より法政大学キャリアデザイン学部教授。2019～2020年度キャリアデザイン学部学部長。The University of Manchester Alliance Manchester Business School Visiting Academic(2016-2017年)。厚生労働省労働政策審議会公益委員(2021年～)。労働政策研究会議(JIRRA)会長(2022年～)。近著は『日本の人材育成とキャリア形成:日英独の比較』中央経済グループパブリッシング(2022年)。



アフリカ遊牧民の家計調査を通じて 開発途上国の貧困問題に取り組む

ケニアやエチオピアの遊牧民を対象に、開発途上国の経済活動を研究している池上宗信教授。
現実の暮らしぶりを客観的に調査、分析することで、世界の貧困問題に向き合っています。

経済学部国際経済学科 教授 池上 宗信



ケニアやエチオピアで暮らす 遊牧民の家計データを調査

開発ミクロ経済学を専門としています。開発ミクロ経済学とは、個人や家計などの経済行動を分析するミクロ経済学の中でも、開発途上国を対象とした学問分野です。私は主にエチオピア南部とケニア北部の遊牧民に着目し、彼らの家計状況を分析しています。

エチオピアやケニアが位置する東アフリカは降水量が少ない乾燥地帯で、農作物が育ちにくい環境にあります。そのため、水と牧草を求めて移動しながら家畜を育て、繁殖させる遊牧で生計を立てる家族が多く暮らしています。厳しい自然環境での遊牧生活は不安定で、周期的に干ばつの危機に見舞われることもあり、貧困という根深い社会問題に直面しています。中には「貧困の罠」と呼ばれる悪循環が生じているケースもあり、そこから抜け出すためには、経済的に豊かな諸外国からの経済協力や開発支援が不可欠です。

とはいえ、推定だけで支援の必要性を訴えることはできないので、貧困状況を判断するための根拠が必要です。それが、対象地域を正確に調査して検証した家計データなのです。

現在はエチオピア南部の500世帯ケニア北部の900世帯の遊牧民を対

象に家計行動を調査研究中です。その結果を論文にまとめることで、貧困問題解決の一助となるような支援策の提言につなげたいと考えているのです。

開発途上国は世界の7割以上を占めています。日本も国際協力機構（JICA）などを通じて、多くの開発途上国に経済支援をしています。問題は山積みです。開発途上国の生活環境をより良くするために何ができるかを追究する開発経済学は、国際社会に寄与する実践的な学問で、まさに「実践知」だと感じています。

象に家計行動を調査研究中です。その結果を論文にまとめることで、貧困問題解決の一助となるような支援策の提言につなげたいと考えているのです。

研究拠点を大学に移し、 学会参加に意欲を燃やす

貧困や紛争などの国際的な社会問題と向き合うために、自分にできることをしたいと思いはじめたのは、高校時代からです。国際機関で働く国際公務員を目指し、大学を卒業した後はケニアにある国際家畜研究所に所属。研究員として、約10年間勤めていました。

2018年からは拠点を法政大学に移して、研究を続けながら教育者としても歩み始めました。日本で職に就くことにも、教育者という立場で学生と接するのも初めてで、最初は空回りばかりしていました。

5年を経て少し落ち着いてきたので、今後は研究成果を示すことにも注力し



2010年10月、ケニアに在任時に同国で暮らす遊牧民を調査。全地球測位システム（GPS）を使って調査地点の位置を記録している



新型コロナウイルス流行前には交流イベントなどを計画し、ゼミ内の親睦を深めていた。写真は多摩キャンパス内で開催したバーベキュー（2018年）



ゼミでは、学生たちの自主性に任せた多種多様なテーマを展開。「批判的思考」を大切に、自分たちの好きなテーマに取り組む学生たちの笑顔は明るい

たいと考えています。2023年3月には英国オックスフォード大学アフリカ経済研究センターが主催する学会に参加して、論文発表をする予定です。日本に戻ってきてからの学会発表はこれが初めてになります。これを機に積極的に活動を展開していきたいですね。学会にはアフリカ経済に興味がある人が集まるので、意見交換ができれば、研究をブラッシュアップできます。また、前職のように現地に滞在して調査することができない以上、国境や大学の枠を超えたネットワークは、研究を進めるために大いに役立ちます。お互いに協力し合える輪が広がることを期待しています。

大学時代の自由な時間を 有効活用してほしい

法政大学の経済学部には、多方面で研究成果を上げている先生がおられます。その刺激を受けながらも、自分自身に何を提供できるのか、どのように学生の学びをサポートしていくべきか、自問自答する日々です。教育者としては発展途上中の身だと自覚しているので、学生の後押しをするというより、学生と共に歩みながら、寄り添っていきたくと考えています。文系に類すると考えられがちな経済学ですが、私が携わっているミクロ経

済学、開発経済学の分野では、数学スキルは不可欠です。調査データを集計したり、傾向を分析したりするために、数式も図も多用しています。

いわば文理が融合した学問なので、社会に出てからも応用範囲が高いと思うのですが、その有用性を示すには、まだ認知度が足りないようです。周知していくために、研究面でも教育面でも試行錯誤が必要だと感じています。

近頃の学生たちを見てみると、コロナ禍という状況下で制約に縛られていたせいなのか、どこか覇気がない印象を受けます。大学時代の4年間は貴重なもので、自由に使える時間を大切に、戦略的に有効活用してほしいですね。停滞していた2年間を振り返るよりも、これからの未来を見て、意欲的に挑戦できること、夢中になって熱い思いをぶつけられることを見つけてほしいと願っています。

池上 宗信

Ikegami Munenobu

中央大学総合政策学部政策科学科卒業、ウイスコンシン大学マディソン校農業応用経済学博士課程修了。博士（農業応用経済学）。国際的な農業研究所であるInternational Livestock Research Institute（国際家畜研究所）の研究員としてケニアに駐在した後、2018年に法政大学経済学部教授として着任。現在に至る。「インデックス型家畜保険の需要増加の要因と長期的な経済効果の分析」の研究に携わり、発表した論文^{*2}は2021年にAAEA International Section（米国農業応用経済学会国際部門）にて、Best Publication 2020（最優秀論文）を受賞。

^{*2} 論文：『Can insurance alter poverty dynamics and reduce the cost of social protection in developing countries?』（イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校のSarah Janzen教授とカリフォルニア大学デービス校Michael Carter教授との共著）

^{*1} 貧困の罠：低所得層の人は貧しいが故に教育水準が低く、労働生産性を高められないことから所得を増やしつつも悪循環が生じること

モノの動きや関係性を担うメカニズムに注目し、日用品から宇宙関連技術まで手掛ける山田泰之准教授研究室。実践を重視した学びで、デジタルファブリケーション機器を駆使したさまざまな課題に挑戦し、モノづくりの技術を磨いています。

「今の時代のモノづくりにデジタルファブは欠かせません。いろいろな機械を使いこなしていくことが大切なので、課題を通じて触れる機会を増やしています」と語る山田准教授。例えば研究室に入って間もない頃の課題は「一枚の合板から作る立体的な生物模型づくり」。レーザーカッターを駆使しながら知恵を絞って完成させたパズルのような模型は、初作品として研究室に飾られています。

4年次では、個別に卒業研究に取り組みます。藤井さんが着手したのは着ぐるみの機構開発です。「着ぐるみの動きはジェスチャーや手足を動かすだけのものが多いですが、もつと表現力を高める仕掛けづくりを目指しています。最終的には『えこびよん』の耳を動かしてみたいですね。山田研究室ではテクノロジーとクリエイションを融合した研究ができるので、やりがいがあります」と笑顔を見せます。

研究生たちは学外コンベンへの参加も積極的で、3年次は全員が「学生照

**デザイン工学部システムデザイン学科
メカニズムデザイン研究室
(山田泰之准教授研究室)**

**モノづくりに向き合い
創造力と発信力、
社会に出る力を養う**



前列左から山田泰之准教授、引間万柚子さん、後列左から山田颯人さん、藤井亮輔さん
※全員、デザイン工学部システムデザイン学科4年

ゼミナール・研究室



学生たちでにぎわう山田研究室の様子。ここを拠点に、3Dプリンターなどのデジタルファブを活用した新たな研究作品が生み出されている



安全性を高めた子ども乗せ自転車の研究事例。乗車位置を低くした子ども座席を鉄パイプのフレームで覆うことで、もし転倒しても子どもへの衝撃を軽減できる



「学生照明展2022」で入賞した山田さんの作品「mutual」。おわん型器具はセンサーで作動し、おわんからおわんに光を移すような動作で相関して点灯する

明展」に出品。さらに、有志が自主的に参加した「GUGEN」でも、入賞などの成果を残しています。

研究室に入る前から、個人的に3Dプリンターを購入するなどオリジナルリテイルのあるモノづくりに意欲的だったのは山田さん。手掛けた作品が次々と受賞するなど、着実に力を伸ばしています。「もつと本格的にモノづくりを究めたいので、大学院への進学を決めました。将来は、子どもたちがワクワクしながらモノづくりを楽しめるように、図工を教える教室を開きたいと考えています」と夢を膨らませています。

「山田准教授には、モノづくりの技術はもちろんです。社会人としての心構えも教えていただきました。その教えにはとても感謝しています」と語るのは引間さん。「今後はデザイナー職として働く予定なので、研究室での学びを生かしながら、モノをデザインする上でどうすれば使いやすいか考えるのを考えていきたい」と、将来の自分を見据えます。

春を迎える山田研究室では、学びの集大成として、卒業研究で取り組んだ作品をプロモーションムービーと合わせて展示する「卒業展示会」を計画。学生たちは、作品の魅力が伝わるアピール方法などを考えながら、準備を進めています。

■

※1 デジタルファブリケーション：3Dプリンターやレーザーカッターなどのデジタル工作機器を活用してモノづくりをする技術のこと。通称デジタルファブ。
※2 GUGEN：社会の課題解決を目指し、実用性・商品性の高いオリジナルハードウェアを募集するコンテスト。

かるた会は、市ヶ谷キャンパスを拠点に競技かるたを楽しんでいるインカレサークル。週に3回は部内で試合形式の練習を積みながら、腕を磨いています。

競技かるたは、「小倉百人一首」の札を使ったかるた取り勝負です。1対1の対戦で、読み札として短歌の上の句が読まれた時に、続く下の句が書かれた札をどちらが先に取るかを競います。

「試合では、自陣に並べた25枚の札をゼロにした方が勝ちとなります。場のない50枚の札も読まれるので、運にも左右されます。自陣にある札を取られたり、お手つきをしたりすると相手から札が送られてしまうので、「瞬の判断力が勝負です」と競技かるたの魅力語るのは前代表の松岡さん。「コロナ禍前の大会では大学日本一になった実績もあるので、その強さに引かれて入部したかるた好きの部員が集まっています」と笑顔で語ります。

競技かるたの大会は数多く開催されていますが、特に注力しているのが年間の大学日本一を決める「大学選手権」と、年2回開催される「全国職域学生かるた大会」です。

各大会に出場する際は、級別でランク分けされます。E級から始まり、大会に出場して好成績を残すとD級

かるた会

**「ちはやぶる」瞬発力で
かるた札が飛び交う
競技かるたに夢中**



左から、赤崎遼さん（キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科2年）、松岡凜さん（法学部法律学科3年/前代表）、村田裕貴さん（法学部法律学科2年）

クラブ・サークル



2022年9月に開催した部内イベント「法政カップ」での1枚。部内でチーム分けして、和気あいあいと団体戦を楽しんだ



大学構内にある畳敷きの部屋か外部施設を借りて行われる練習は実戦重視。1試合ごとに、大会さながらの真剣勝負が繰り広げられる



毎年、市ヶ谷キャンパスの大学祭には模擬店を出して参加。2022年度はフランクフルトの出店を設営し、部員が協力し合いながら販売した

C級、B級の順に昇級して、最上級はA級です。

「コロナ禍の影響で大会の中止が相次ぎ、しばらく昇級にチャレンジする機会も失われていたのですが、ようやく練習の成果を発揮できました」と、念願のA級昇格を果たした喜びを語るのは赤崎さん。「A級になるには、B級の大会で優勝か準優勝を2回する必要があります。トーナメントを勝ち続けるためには一日中集中力を持続していないといけないので、昇級が決まった時にはホッとしてうれしかったですね」と快挙の瞬間を振り返ります。

「かるた会は部内の雰囲気がいいのです。試合ではもちろん真剣勝負ですが、かるたを楽しみたいメンバーも多いです。日常では級位や学年など関係なく声を掛け合いながら、気軽に競技かるたを楽しむ交流イベントなどの機会も増やしています」と語るのは村田さん。「年3回は実施していた合宿の再開を検討している他、2023年は、創設20周年という節目の年なので、卒業生を交えたイベントの計画も始まっています」。

ようやく思い切り活動が再開できそうな2023年度に向けて、部内ではこの3年間の思いをエネルギーに変え、より一層活動が活発化していきます。

■

THE SCENE

大学有数の歴史と実力を誇る、法政大学体育会。
そんな伝統ある40体育会が日々活動しているワンシーンを、迫力あるカラーグラビアで紹介します。



相撲部

撮影場所：川崎総合グラウンド（相撲場）
撮影：田中伸弥
集合写真：相撲部提供

相撲部は1918年に創立され、2023年に105年を迎えました。現在は部員12人に加えて、監督、コーチの2人にご指導いただきながら日々練習に励んでいます。2022年度は「第101回東日本学生相撲選手権大会（団体戦）」のBクラストーナメントで準優勝を果たし、2部リーグから1部リーグに昇格することができました。2023年度は、1部リーグからのスタートになります。気が抜けない大会が続くこととなりますが、新たなリーグでも上位成績を残せるように、さらに気を引き締めて練習に取り組んでいきたいと思っています。今後とも応援よろしくお願ひします。

Message

「自由を生き抜く実践知」を
体現している
学生の声を届けます。

東日本大震災から12年が経ち

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ
「チーム・オレンジ」代表
法学部政治学科2年

Isoami Tomoe

磯網 巴さん

東日本大震災が起きた時、私はまだ小学生。家族が帰宅困難者になりましたが、周囲の大人に守っていただきました。当時は自宅から近い学校に通っていたこともあり、首都直下型地震が起きて公共交通機関がまひすることを考えても、どこか他人事でした。誰かが守ってくれるだろうと無意識のうちに思っていたのだと思います。

しかし、法政大学に通うことになり、もし大学の構内にいるときに大地震が起きたら、今度は1人で何とかしなくてはいけないと気が付きました。そこで、東日本大震災のことを学び、その知識をいざというときに生かせないかと考え、チーム・オレンジに入りました。

チーム・オレンジは、被災地の復興支援や防災啓発活動を行っています。実際に被災地に行く企画では、現地の方の話を聞いて学びを深めるスタディツアー、避難道の整備や公営住宅の清掃などの支援活動を行うボランティアツアーなどを実施しています。防災啓発活動では、大学で被災したことを想定した防災キャンプの他、防災クイズカルタや避難所運営ゲームといったゲームを通じて、防災知識を深める企画も手掛けてい

ます。

2022年に、防災啓発活動の一つである防災キャンプの企画・運営に携わりました。大学にいるときに大地震が起きて帰宅困難者となり、大学構内で一泊することを想定した企画です。

この企画で大変だったのは、実際の災害を想定することです。初めは企画内容だけに注目し、実際に被災したときのことを具体的に考えられていませんでした。しかしメンバーと協力し、被災したら困ることを考えた結果、日用品がなくなること、多

くの困ることが出てきました。

この活動で得た教訓は、「自分で考えることです。災害時には想定外のこと起きるの当たり前です。しかし、訓練や疑似体験を通して考え、備えることができれば、自分を守ることはもちろん、周囲の人にも目を向け、助けることができると感じました。自分なら大丈夫という考えを捨て、できることから対策をする大切さを感じています。

多くの学生が被災地に目を向け、防災に関心を持つことができるよう、これからも被災地支援、防災啓発活動を続けていきたいです。



後援会だより

「後援会だより」は、後援会が会員（保護者）の皆さまと作るページです。今回は、卒業生と保護者による「親子でつづる法政の4年間」をお届けします。



法学部
粕淵 結花

選んだ道を正解にする

アジアの貧困問題への関心から、法学部国際政治学科に進学。そこから4年間は、選択の連続でした。結果的に留学経験のある台湾、中国・香港が研究対象の福田円教授のゼミを選び、猛スピードで発展する中国に魅了され、中国政治に関する論文を2本執筆しました。課外活動では350人規模のダンスサークルHSD（Hosei Street Dance）に所属。この選択は大学生活を一変させました。週の大半を公演練習やサークル員との交流に費やし、法政の代



HSDの引退公演。Tシャツは粕淵さんがデザイン



粕淵 美和

卒業に寄せて

あなたが当たり前のように過ごしてきた日常は、周りにいらっしやる教員や職員の方々が、先輩、友人、環境が変わって離れて暮らしている父など、実にさまざまな方の恩恵があつてこそ成り立っていたものです。春からは新社会人ですね。今度あなたが一歩前を出て、その恩に報いる番です。ぜひ、就職活動の際に目標にしていた「一人に気付け、広める」を実現してください。心から、卒業おめでとうございませう。



経済学部
原田 一真

感謝

大学4年間を振り返ると、本当に多くの支えがあり、その一つ一つに心から感謝しています。2019年4月、勉強とバスケットボールの両方に力を入れたという思いで、地元札幌から上京しました。しかし、部活動も勉強も順風満帆とはいきませんでした。部活動では激しいレギュラー争いで挫折を経験し、また2年次からはコロナ禍でキャンパスに行くことができませんでした。先の見通しが立たない状況の連続でしたが、そのたびに両親やバスケ



川崎総合グラウンドの部室前で



原田 昌和

自身との闘い

北の大地から関東への道を決意して4年。それは期待と不安、そして未知なる可能性を思い描いた、人生の大きな分岐点であつたに違いない。この4年間、コロナ禍情勢はもろろんのこと、自身の努力に反し、多くの苦境に行く手を阻まれ、自問自答を繰り返したことだろう。しかしそこには、自分を取り巻く、数え切れぬほどの縁と支えがあり、苦難を乗り越え、救われたはず。その感謝を生忘れず、これまでの経験を糧に社会で大きく飛躍してほしい。



国際文化学部
玉井 希実

感謝の気持ちを込めて

私の大学生活の大半はコロナ禍でしたが、その環境だからこそ得られたものもあつたと思います。例えば、スタディ・アブロード（SA）の中止で半年の留学がかなわなかった代わりに、より多くの授業を履修し、じっくりと学びを深めることができました。また、オンライン授業には、手元の授業資料を落ち着いて見られる、レポート提出の機会が増えて文章力が鍛えられた、などの利点もあつたと感じています。感染対策をしながらのゼミ活動でも、映像作品



ゼミの映像作品用に市ヶ谷キャンパスで撮影



玉井 裕子

卒業に寄せて

1年次はSAに備えてびっしり授業を取り、なかなか頑張るなあ、これなら海外でも大丈夫と思つていたところに、コロナ禍でSAが中止でも、それならSAがあつたらできなかったことをやる！と切り替え、即実行した思い切りの良さに驚かされました。付属校の「二高」から培つてきた「自由と進取の気象」が、あなたを後押ししてくれたのかもしれないね。これからも支えてくださる方々への感謝を忘れずに、自分の道を進んでください。卒業おめでとう。



理工学部
海老根 孝樹

価値観の破壊と生成

私は4年間「やりたいことは全部やる」の精神で、好奇心の赴くままにさまざまなことに取り組みました。中でも卒業研究は、特に私の人生を豊かにしてくれました。私の研究は福岡県八女市星野村を事例とした、キャリア教育による地方創生の実践研究です。現地に数カ月間滞在してフィールドワークを行いながら、地域が抱える教育的な課題の抽出、それを解決するための教材開発に尽力しました。その結果、現地の中学校校長が活動を評価して下さり、外



星野中学校での授業の様子



海老根 英樹

卒業に寄せて

武道館での入学式からもう4年。教員になることを夢見て始まつた大学生活でしたが、早い段階で目標を変更したのはちょっと意外でした。でも、それも成長の証しだと思います。コロナ禍で行動が制限される中、変化する環境に適切して活動の幅を狭めることなく、全力で頑張っている姿を感じしながら見守っていました。社会に出てからも、さらに活動の幅を広げて頑張ってください。卒業おめでとう。

2022年度法政大学後援会表彰

後援会では毎年、学術・スポーツなどで顕著な成果を上げ、在学生をはじめ父母・卒業生など大学関係者に大きな感動を与え、本学の名を高めるのに著しく寄与した学生を表彰しています。

2022年度は、学術分野において難関試験に合格された33人、スポーツ分野において大きく活躍された5人が受賞し、鯨岡光男後援会会長から表彰状と副賞が贈られました。各受賞者のコメントは、後援会ウェブサイトに掲載しています。



鯨岡光男後援会会長から受賞者代表の吉沢直也さんに表彰状を授与

学術分野

【公認会計士試験合格】

- 飯森 茜 (経営学部4年)
- 岩崎 光希 (経営学部4年)
- 鵜飼 颯大 (経営学部4年)
- 梅津 駿汰 (経営学部4年)
- 下西 郁也 (経営学部4年)
- 鈴木 雄大 (経営学部4年)
- 藤本 啓太 (経営学部4年)
- 向井 健人 (経営学部4年)
- 校條 太郎 (経営学部4年)
- 吉沢 直也 (経営学部4年)
- 薄井 太希 (経済学部4年)
- 森 翔麻 (経済学部4年)
- 小澤 勇太 (理工学部4年)
- 小田 裕太 (経営学部3年)
- 加賀田 未有 (経営学部3年)
- 清水 裕貴 (経営学部3年)
- 富山 魁斗 (経営学部3年)
- 松田 栞 (経営学部3年)
- 堀井 悠真 (経済学部3年)
- 畑山 雄飛 (人間環境学部3年)

【国家公務員採用総合職試験合格】

- 久保倉 徳紀 (法学部4年)
- 大畑 翔 (法学部4年)
- 井上 航 (法学部4年)
- 谷口 元軌 (法学部4年)
- 別所 大庸 (経済学部4年)
- 石川 凌 (経済学部4年)
- 廣川 智也 (経済学部4年)
- 當間 康生 (社会学部4年)
- 東條 慧 (経営学部4年)
- 渡部 英治 (人間環境学部4年)
- 門口 紗也 (現代福祉学部4年)
- 木藤 凜紗 (デザイン工学部4年)
- 阿部 史和 (法学部3年)



スポーツ分野

【ゴルフ部】

- 森 彩乃 (経営学部4年)
- 2022年度JLPGAプロテスト合格

【水泳部】

- 渡邊 夢乃 (スポーツ健康学部4年)
- 第98回日本選手権水泳競技大会
アーティスティックスイミング競技
フリーコンビネーション2位 他
- 日本アーティスティックスイミング チャレンジカップ2022
チームテクニカルルーティン優勝

【陸上競技部】

- 横地 大雅 (スポーツ健康学部4年)
- 2022日本学生陸上競技個人選手権大会
男子110mハードル2位
- 第106回日本陸上競技選手権
男子110mハードル8位

【バドミントン部】

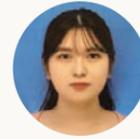
- 小川 翔悟 (経済学部4年)
- 宮 滯里 (人間環境学部4年)
- 第10回全日本学生バドミントンミックスダブルス
選手権大会優勝 他

法政大学後援会事務局

〒102-0073
東京都千代田区九段北 3-2-3 法政大学九段校舎 4F
TEL:03-3264-9350
FAX:03-3264-9367
E-mail:koenkai@hosei.ac.jp



後援会ウェブサイト
<https://www.hosei-koenkai.org/>



GIS (グローバル教養学部)
南出 さくら

挑戦の4年間

学生じゃないと経験できないことをしたい!という願望を胸に上京した私が出合ったのは、総合エントラーテインメントショーの企画・運営をする学生団体。「キラキラして楽しそう!」という思いで始めた活動は、楽しいだけでなく、仲間とのつながりの大切さを教えてくれました。

まだコロナ禍の続く3年次には副代表に挑み、今までに経験したことのない責任感と楽しさを味わいました。最初は学業と両立させられるかと不安でしたが、より多

くの学生に人とのつながりを感じてもらいたいと思い、その役割を全うしようと決心しました。

また、共通語が英語のGISでは、入学当初から挑戦の連続でした。学外で課外活動をしていいため、キャンパスで過ごす時間は少なかつたけれど、一緒にテスト勉強や課題に取り組み、学生生活を存分に楽しめたのは、友人の理解と協力があつたおかげです。

挑戦に対して前向きになれた大学の4年間を糧に、これからも挑み続けられる人間でいたいです。



副代表時代に手掛けたイベントの本番当日



南出 太

さくら 卒業おめでとう

コロナ禍で制限の多い中、精いっぱい学びや生涯の友達ができましたか?

法政大学で得たものは、これからの人生の中で、最高の財産となるでしょう。

東京で芽吹き、社会で大きく咲かせてくださいね。

京都から東京へ出た娘に、思いをうまく伝えることができませんでした。それはこれからも同じです。

この春は「さくら」の青春、第2章の始まりの時。心からエールを贈ります。



理工学部
畑島 志哉

研究と出合ってから

入学した頃はいいかげんな面も多く、進路も考えず、学業もおろそかになりがちでした。

しかし3年次の研究室配属で「離散最適化」という分野を知ると、勉強が急に楽しくなりました。特に「グラフ理論」に大いに興味を持ち、卒業研究ではそれに関する研究を行いました。

さらにこの分野の研究を深めたいと考えるようになり、大学院進学を決意し、他大学の大学院を受験することに決めました。受験ではこれまで学んでいない内容を一

から学習する必要があり、不安な気持ちで取り組みましたが、無事合格することができました。また卒業研究を学会で発表する機会をいただき、自分の研究に価値を見いだせたことがとてもうれしかったです。

離散最適化の分野を教えてください、受験時に他大学の大学院の情報や先生を紹介してください。高澤兼二郎准教授には大変感謝しています。大学院へ進学してからも、先生に教えてもらったことを生かしていこうと思います。



小金井キャンパスの離散システム研究室



畑島 久美子

自分の夢に向かって

希望に満ちた入学式が、つい先日のようです。1年生の2月、新型コロナウイルスのために、生活が一変してしまいました。不安な毎日が思い出されます。

その中でも、自分で楽しみを見つけて、自分の夢を実現させようという気持ちで、たくましく成長を感じました。大学院への進学に向け、自分で考え行動し、希望をかなえることができましたね。自信につながり、これからの自分の財産となるでしょう。

卒業おめでとう。これからも応援していきますね。



HOSEIミュージアム
HOSEI UNIVERSITY MUSEUM

「大造じいさんとガン」の作者 椋鳩十と法政大学

小学校の国語の教科書に掲載されている「大造じいさんとガン」を書いた児童文学作家・椋鳩十（本名・久保田彦穂）は、本学文学部の卒業生です。

椋は1905（明治38）年、長野県下伊那郡喬木村の牧場主の家に生まれました。父に同行して山へ入り、いろいろで祖母から昔話を聞き、ヨハンナ・シュピリの児童文学作品「アルプスの少女ハイジ」に感動する多感な少年でした。椋は「ハイジ」を「運命の書」と呼んでいたといいます。南アルプスと中央アルプスに挟まれた伊那谷の大自然に囲まれた環境が、作家となる素地をつくったのでしよう。

取の気象の雰囲気がみなぎる時代でした。椋は、特に仏文学者の豊島与志雄と英文学者の森田草平にかわいがられ、国文科の学生でありながら、「仏文科や英文科の講義ばかり聞いていた」ようです。充実した大学生活を送る中で、椋は詩の世界に心を奪われ、詩人の佐藤惣之助に師事します。本名を1字だけ変えた「久保田彦保」の名で、在学中に第1詩集「駿馬」を自費出版。感覚的、直観的に自然を捉え、次第に「純粋の美とは何か」を考えるようになった椋は、作品発表の場として「リアン」という同人誌も刊行しました。

戦後は鹿児島県立図書館館長を務め、「母と子の20分間読書」運動を提唱して、全国に広めました。82歳で逝去するまで創作活動も展開し、いくつもの文学賞を受賞。「マヤの一生」のようにアニメ化された作品もあります。

2012年度から国際文化学部で主に留学生を対象に実施している「スタディ・ジャパン国内研修」では、椋の原点・伊那谷が訪問先となっております。大先輩の歩みを振り返ることは、視野を広げ、考えを広める契機となることでしょう。



- 1 伊那谷を望む椋鳩十の胸像（喬木村立椋鳩十記念館提供）
- 2 椋鳩十の詩集『駿馬』（自費出版、1926年）とご令孫・久保田里花氏執筆の伝記『椋鳩十 生きるすばらしさを動物物語に』（あかね書房、2019年）
- 3 卒業式の集合写真。2列目右から5人目の蝶ネクタイ姿が椋鳩十（1930年）

HOSEIミュージアム テーマ展示
能の「伝統」と「現代」

期間：2023年2月17日～4月26日
場所：市ヶ谷キャンパス九段北校舎1階
詳細：HOSEIミュージアムウェブサイト



校友会だより

一般社団法人法政大学校友会（以下、校友会）は、「法政ネットワーク」強化により校友憲章に謳っている「価値の創生・共創」を基本理念に、大学、後援会と手を携えて三位一体で諸事業を推進してまいります。

「オール法政新年を祝う会」を3年ぶりに対面で開催

2023年1月29日（日）に「オール法政新年を祝う会」がグランドニッコー東京台場「パレロワイヤル」で開催されました。この会は大学と後援会と校友会の関係者が一堂に会してお互いのますますの発展を誓い合うものです。

コロナ禍により、2年続けてオンラインでの開催となりましたが、ようやく3年ぶりに対面での開催となり、全国各地から約550人が参加しました。今回は、新たな試みとしてライブ配信も行い、遠方で当日の参加が難しい方などに

もお楽しみいただける企画となりました。また司会には、フジテレビジョンの木村拓也氏（2013年法学部卒）とテレビ朝日の三谷紬氏（2017年社会学部卒）の両アナウンサーを迎えました。

今回の祝う会は、法政大学校友会憲章にある「持続可能な社会を実現するために、『価値』を創造」をテーマとし、左のプログラムで開催されました。

持続可能な社会の実現をテーマにした講演に続き、南極からの生中継や「箱根駅伝」で総合第7位と活躍した駅伝チー

ムの紹介などで会場は大いに盛り上がりました。参加者からは、「対面での開催の素晴らしさを心から感じました」といった声や、「テーマに沿った企画で統一感があり、法政大学や校友会のビジョンにも関連してよかった」という声をいただきました。

コロナ禍のため、恒例の肩を組んでの校歌斉唱は控えることとなりましたが、今回は全員がスクラムを組んで声高らかに校歌を歌えることを祈って、閉会の運びとなりました。



（左上）川久保俊教授の講演。（右上）菅義偉前内閣総理大臣の講演。難解な課題を丁寧に分かりやすく説明いただきました。（左下）澤柿教伸教授とのZOOM交信。南極昭和基地からの生中継で、臨場感あふれるひととき。（右下）竹中宣雄校友会会長のあいさつ。対面での開催への感謝を述べられました

2023 オール法政新年を祝う会 プログラム

- 第1部
- ・デザイン工学部 川久保俊教授による記念講演
演題：「SDGs持続可能な社会を実現するためには」
 - ・菅義偉前内閣総理大臣による特別講演
演題：「カーボンニュートラル宣言」
- 第2部
- ・主催者あいさつ、および来賓からの祝辞
 - ・持続可能な社会を実現するための「価値」創造事例の紹介【動画放映】
 - ・社会学部 澤柿教伸教授（第63次南極地域観測隊越冬隊長）による出発前メッセージ
 - ・南極昭和基地で活動している澤柿教授とのZOOM交信
 - ・法政大学応援団によるデモンストレーション
 - ・学生のスポーツ実績紹介
 - ・第29回法政大学全国卒業生の集い「倉敷大会」のご案内
 - ・校歌斉唱（マスク着用）

一般社団法人 法政大学校友会事務局 Tel 03-3264-1831 Eメール info@hoseinet.or.jp ウェブサイト https://hoseinet.or.jp/

MISAWA

GO to FRONTIER

南極 × 宇宙 × ミサワホーム

ミサワホームは、国立極地研究所を通して、半世紀以上にわたり南極・昭和基地の建物建設をサポートしてきました。

数々の実証実験から得られたデータ・技術は、サステナブルな昭和基地の形成や、

宇宙での有人拠点建設、未来志向の住宅などに活用する予定です。

常に“あたらしい”に挑戦し業界をリードし続けているフロンティアスピリットを胸に、

まだ見ぬ暮らしを実現する「未来の住まいづくり」を目指して、さまざまなパートナーとの共同研究を進めています。

そして私たちは待っています。

より多くの方々へ、新しい豊かさをお届けできるよう、住宅という枠を超え、

一緒に新しいフィールドに挑戦してくれる仲間たちを…。

君と未来をつくる



南極・昭和基地



南極・昭和基地の建物建設をサポートし続けてきたミサワホーム。半世紀以上に亘る活動と南極の美しい映像をお楽しみいただけます。

写真提供 / 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立極地研究所

MISAWA **ミサワホーム**

法政大学の皆様へ

ミサワホームでは皆さんのエントリーをお待ちしています。

HP : <https://www.misawa.co.jp/corporate/recruit/fresh/>

@misawa_saiyou



J-POWER 株式会社J-POWERハイテック

本店所在地: 東京都千代田区九段北4丁目2番5号(共益市ヶ谷ビル) <http://www.jphytec.co.jp/index.html>

技術系・事務系の皆様のエントリーをお待ちしております!

電話: 03-3237-2323 E-mail: saiyou@jphytec.co.jp



【採用HP】



【各職種紹介動画はこちらから】

水力発電・送変電設備のプロとして
共に豊かな社会を支えよう

写真: J-POWER 田子倉発電所(福島県)

くらしとしごと 夢ある未来

私たちはICTを通じて、
豊かな地域社会の発展と夢ある未来の創造に貢献します。




自慢の
職場環境

所在地
横浜

NEC
グループ



株式会社ワイイーシーソリューションズ 〒231-0023神奈川県横浜市中区山下町22番地 山下町SSKビル
<https://www.yec.ne.jp/>
 OB・OG訪問の申し込みはこちらから ☎045-662-3616



「すべてはお客様のために」

私たちの原動力は、お客様の声です。
 難しいご要望にも真摯に耳を傾け、
 絶えず時代の風を読み、
 お客様の声にお応えしてきた足跡こそが、
 私たちの歴史です。
 時代が変わり、テクノロジーが進化しても
 原点にある私たちの想いは、
 今なお変わることはありません。
 これからも私たちは、
 エレクトロニクス業界の発展を支え続け、
 新しい未来を切り拓きます。



 **加賀電子株式会社**
<https://www.taxan.co.jp>

〒101-8629 東京都千代田区神田松永町20番地
 TEL: 03-5657-0111 (代)
 東京証券取引所 プライム市場上場(証券コード: 8154)
 加賀電子グループ: 63社(国内23社/海外40社)



— <学生の皆さまへ> エレクトロニクス商社に興味がある方、人と接することが好きな方、ご応募お待ちしております! —
 TEL: 03-5657-0125 (人事部) E-mail: recruit@taxan.co.jp 採用サイト URL: <https://www.taxan.co.jp/jp/recruit/graduate/>

エントリーはこちらへ

法政スポーツを盛り上げよう!
 『法政スポーツインフォメーション』



- 各部の
情報ニュースが
読める!
- シーズンごとに
配信する
メールマガジン
- 応援日程を
自分の Google
カレンダーと
同期可能
- 参加費
入会費は
もちろん無料!

ウェブサイトへアクセス! ▶ <http://hosei-sports.jp>

法政スポーツインフォメーションは、法政大学体育会本部と法政大学後援会会員及びその出身者、卒業生、教職員が共同で立ち上げた法政スポーツコミュニティー(通称:HSC)が運営するスポーツ情報サイトです。体育会各部の試合情報や応援イベントをご紹介します。 「法政を応援する喜び」や「法政ファミリーの一員である喜び」をスポーツ応援を通じ、わかち合しましょう!

メールマガジンのお申し込み



QRコードもしくは、法政スポーツインフォメーションのサイトより「メールマガジン登録」にアクセスいただき、必要事項を記入の上、ご登録ください。応援情報はもちろん、各部の取材記事など法政大学のスポーツ情報を余すことなくお伝え致します。



お問い合わせ(法政スポーツインフォメーション運用事務局) info@hosei-sports.jp

開発型商社として
 脱酸素社会の実現を
 目指します



フコク物産は、単なるモノ売りではなく、企画から製品実現まで一貫して携わる“開発型商社”です。
 自動車・鉄道等の様々な分野の工業製品の企画・開発段階から、市販されるまでフコク物産がサポートしています。

創立76周年 **フコク物産株式会社** 東京都大田区大森西2-32-7 フコク物産ビル 03-3765-3211
 ご応募はこちら saiyou-2@fukoku-bussan.jp 法政大学の皆様へ
 フコク物産株式会社では
 皆さんの応募をお待ちしております。



デザイン工学研究科の学生が「2022年度グッドデザイン・ニューホープ賞」の優秀賞を受賞

2022年度の「グッドデザイン・ニューホープ賞」(GOOD DESIGN NEW HOPE AWARD 2022)が発表され、デザイン工学研究科システムデザイン専攻の桑嶋玄樹さん(修士課程1年)の作品が優秀賞を受賞しました。受賞作品は、楽器と再生プレーヤーの両方の特徴を取り入れた自動演奏型気鳴楽器「Camraphone-カムグラフィオン」です。



第41回法政大学多摩キャンパスコンサートを開催しました



2022年12月4日(日)、多摩キャンパスEGG DOMEの5階ホールで、「多摩キャンパスコンサート」を開催しました。今回で第41回を迎える、キャンパスの恒例文化行事です。登場したのはヴァイオリニストの篠原悠那氏。若手No.1の弦楽四重奏団「カルテット・アマービレ」1st ヴァイオリンを務め、アニメ『四月は君の嘘』のモデル・アーティストも務める注目のアーティストです。近隣地域(町田市、八王子市、相模原市)から招待された約100人の観客は、美しい音色に聞き入っていました。

2022年度全日本学生室内テニス選手権大会男子ダブルスの優勝ペアが廣瀬総長を表敬訪問



2022年12月4日(日)～11日(日)に開催された「2022年度全日本学生室内テニス選手権大会男子ダブルス」において優勝したテニス部の大田空選手(スポーツ健康学部3年)、加藤木壘選手(経済学部3年)が、2023年1月26日(木)にテニス部部长の中澤史教授(国際文化学部)、監督の植村直己氏(経営学部卒)とともに廣瀬克哉総長を表敬訪問しました。同大会は、大学テニス界では最も大きい大会の一つで、「冬のインカレインドア」と呼ばれています。予選から臨んだ両選手は、本選でも勢いに乗って勝ち上がり、見事優勝を果たしました。インカレインドアでは38年ぶりの優勝です。これからも、テニス部へ温かいご声援をよろしくお願いいたします。

第18回デジタルコンテンツ・コンテスト表彰式を開催



各賞の結果

2022年12月19日(月)、メタバースのイベントスペースであるV-expoにて「第18回(2022年度)デジタルコンテンツ・コンテスト表彰式」を開催しました。今年度の応募総数は、静止画部門、動画部門、インタラクティブ部門合わせて過去最多の113作品。審査の結果、優秀賞(各部門1作品)、準優秀賞(各部門2作品ずつ)、入選は3部門合わせて計18作品が選ばれました(グランプリ受賞は該当者なし)。

2022年度難関資格試験結果のお知らせ

本学では、キャリア形成のサポートの一環として、特に難関資格といわれる司法試験と公認会計士試験のために専門講座を、また公務員採用試験のために対策講座を実施しています。ここでは、2022年度の試験結果をお伝えします。

司法試験	公認会計士試験	公務員採用試験
司法試験は、短答式(択一式を含む)と論文式の筆記により行われます。受験資格を得るには、法科大学院を修了するか、予備試験に合格する必要があります。2022年の司法試験は全国で3082人が受験し、1403人(45.5%)が合格しました。合格者の平均年齢は28.3歳、男女別比率は男性72.27%、女性27.73%でした。本学では、法科大学院修了者から12人が合格しました(2021年は8人)。	公認会計士試験では、短答式試験の合格者が論文式試験を受験できます。2022年度の試験には全国で1万8789人が出願し、論文式試験には1456人が合格しました(対前年比96人増)。合格率は7.7%で、前年の9.6%を下回りました。合格者の平均年齢は24.4歳でした。本学では、2023年3月5日現在、28人の本学関係者の合格が判明しています。	国家公務員の採用試験は、総合職、一般職、専門職に分かれます。国家公務員採用総合職試験は、公務員試験の中でも最難関の試験で、2022年度は本学から24人が合格しました。また、一般職採用試験には114人が合格しました。地方公務員の採用試験は、都道府県庁、政令指定都市をはじめとする地方自治体で行われ、試験内容は自治体によって異なります。本学は、首都圏を中心に全国の広域・基礎自治体へ毎年地方公務員を輩出しており、2021年度(2022年3月卒業生)は266人が就職しました。



卒業後の図書館利用について

卒業生は、市ヶ谷、多摩、小金井の各キャンパスにある図書館を利用することができます。図書館のカウンターで、「ライブラリカード」の発行の手続きをおとりください。

※「ライブラリカード」は、年度ごとに更新手続きが必要になります。手続きの詳細については、図書館ホームページをご確認ください。



2023年度定期健康診断を各キャンパスで実施します

春学期ガイダンス期間に所属のキャンパスで定期健康診断を行います。不調を感じる自覚症状がなくても、必ず全員受診してください。

※各キャンパス、学年などにより日程が異なります。

詳細は大学ウェブサイトなどをご確認ください。



2023年度奨学金制度と申請受付について(学部生対象)

2023年度に申請できる修学支援新制度や主な奨学金のご案内です。申請を忘れないようご注意ください。各奨学金の詳細や申請書類請求方法については、本学ウェブサイト「奨学金・貸費金制度」のページを確認してください(3月下旬掲載予定)。2023年度の奨学金申請は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から郵送で行います。

【高等教育の修学支援新制度】授業料減免と日本学生支援機構の給付奨学金の両方を受けられる国の制度です。本制度を利用中の方は申請の必要はありません。資料請求:4月13日(木)15:00まで / 書類提出締切(郵送):4月20日(木)消印有効 ※申請方法については3月下旬に本学ウェブサイトで案内予定です。

【日本学生支援機構貸与奨学金】日本学生支援機構による返還が必要な奨学金の新規申し込みができます。本制度を利用中の方は申請の必要はありません。資料請求:4月13日(木)15:00まで / 書類提出締切(郵送):4月20日(木)消印有効 ※申請方法については3月下旬に本学ウェブサイトで案内予定です。

奨学金名称	対象学年	貸与額	奨学金概要(対象者)
日本学生支援機構(貸与)	1~4年生	(※1) 自宅通学生:(月額)2万、3万、4万、5万4千円から選択	国の奨学金機関である「(独)日本学生支援機構」が経済的理由により修学が困難な学生に毎月貸与する奨学金
		(※2) 自宅外通学生:(月額)2万、3万、4万、5万、6万4千円から選択	
自宅通学、自宅外通学に関係なく、(月額)2万円から12万円まで1万円きざみで選択			

【法政大学独自の奨学金】6月に一括募集をする給付奨学金です。申請時期:5月12日(金)～6月13日(火)消印有効 奨学金案内や申請方法については5月11日(木)から本学ウェブサイトでご案内予定です。

奨学金名称	対象学年	給付額	奨学金概要(対象者)
法政大学評議員・監事奨学金	1年生	(年額)25万円を上限	1年次入学者で関東1都6県以外の出身の経済的援助が必要な自宅外通学生
公益財団法人日本厚生文化振興財団記念奨学金			1年次入学者で経済的援助が必要な者
法政大学後援会支部出身学生支援奨学金	1~4年生	(年額)20万円を上限	1年次入学者で申請時に保証人の現住所が1都3県以外の経済的援助が必要な者
新・法政大学100周年記念奨学金			学業成績が優れ、教育上経済的援助が必要な者
法政大学サポーターズ奨学金	2~4年生	(年額)20万円を上限	学業成績が優れ、教育上経済的援助が必要な者
鈴木勝喜奨学金		(年額)50万円を上限	
福田明安奨学金		(年額)30万円を上限	
一般社団法人法政大学校友会奨学金	2~4年生	(年額)文系25万円、理工系30万円を上限	学業成績が優れ、教育上経済的援助が必要な者
学生会奨学金		(年額)文系20万円、理工系25万円を上限	
大成建設株式会社奨学金	2~4年生	(年額)25万円を上限	学業成績が優れ、教育上経済的援助が必要な者
株式会社エイチ・ユー奨学金		(年額)25万円を上限	
法政大学後援会クラブ奨学金	2~4年生	(年額)25万円を上限	学業成績が優れ、教育上経済的援助が必要な者
桑田道子奨学金		(年額)25万円を上限	

【その他の法政大学独自の奨学金】

奨学金名称	対象学年	給付額	採用条件
成績最優秀者奨学金	2~4年生	(年額)30万円	各学部2~4年生の前年度成績上位者【指名制】

*指名制のため申請不要です。奨学金候補者には6月中旬に大学から通知します。本学には、上記のほかにも、学業やスポーツなど各分野で活躍した学生を奨励する奨学金や各学部独自の奨学金、外国人留学生を支援する奨学金、家計急変時に申し込める奨学金など、多様な奨学金制度があります。

【民間奨学財団・地方公共団体の奨学金】

給付型のもので貸与型のものがありますが、大学に奨学生募集が届け次第、随時 Hoppii のウェブ掲示板「その他のお知らせ」に掲載します。特に4月初旬に募集が集中し、申請期間も短い Hoppii のウェブ掲示板に注意してください。

各種奨学金制度の詳細は、本学ウェブサイト「奨学金・貸費金制度」のページに掲載する「奨学金ガイドブック」でご確認ください。

各キャンパス奨学金担当窓口

対象	担当窓口	連絡先
法・文・経営・国際文化・人間環境・キャリアデザイン・デザイン・GIS学部生	学生センター厚生課(市ヶ谷キャンパス外濠校舎1階)	03-3264-9486
経済・社会・現代福祉・スポーツ健康学部生	学生センター多摩学生生活課(多摩キャンパスEGG DOME2階)	042-783-2151
情報科・理工・生命科学部生	学生センター小金井学生生活課(小金井キャンパス管理棟2階)	042-387-6011
外国人留学生	グローバル教育センター 事務部国際支援課(市ヶ谷キャンパス大内山校舎2階)	03-3264-5475

*1 貸与型は返還の義務があります。
*2 2018年度以降入学者の貸与月額です。5万4千円、6万4千円は併給基準を満たしている場合のみ選択できます。
*3 給付型は返還の必要はありません(ただし給付を受けた年度内に休学・退学などになった場合は返還を求められることがあります)。

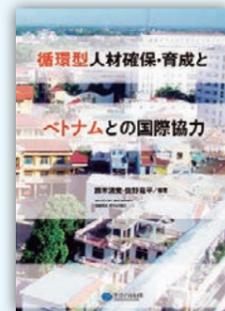




言葉を手がかりに 見ること、伝えること、考えること

国会答弁では、なぜ正確に伝えるためではなく、隠すために言葉が使われるのだろうか。『ザ・空気』三部作で知られる人気劇作家・永井愛と、「ご飯論法」の考案者でもある国会ウォッチャー・上西充子が、日本で起きている問題を見つめながら、逆戻りしつつある民主主義について考察した対談集。書き下ろしコラム全6篇も収録。

上西 充子 他1名 著
キャリアデザイン学部
キャリアデザイン学科 教授
出版社：集英社クリエイティブ
発行：2022年8月



循環型人材確保・育成と ベトナムとの国際協力

外国人材の確保や育成について、一方通行にせず共生社会の一員として位置付けるといふ障害者福祉現場のチャレンジをまとめた書。ベトナムの大学や社会的企業とのパートナーシップに基づき、人材の成長や未来を考慮したビジョンで「循環型人材育成モデル」の構築を目指す。実践を踏まえて、外国人労働者との真の協働を展望している。

佐野 竜平 他1名 編著
現代福祉学部
福祉コミュニティ学科 教授
出版社：クリエイティブ
発行：2022年9月



私たちはなぜ 傷つけ合いながら 助け合うのか

心理学ビジュアル百科
社会心理学編

社会心理学の基本的なテーマを押さえて、現代を生きる私たちに身近な問題や最新の研究成果を盛り込んだ一冊。50のトピックを各4ページずつ使いながら、簡潔かつ丁寧に解説している。これらのトピックから、自分自身の振る舞いや身近な他者、集団との関わり方を振り返るヒントが見えてくる。

越智 啓大 編著
文学部心理学科 教授
出版社：創元社
発行：2022年9月



地球温暖化で 人類は絶滅しない 環境危機を警告する人たちが 見過ごしていること

先進国の環境アラームが推し進める環境対策は、開発途上国に必要な経済発展を阻害し、地球の環境をかえって悪化させている。世界各地の環境運動の実情を見てきた著者が国連気候変動に関する政府間パネル（IPCC）報告書などの科学的知見に基づき、真に実効的な環境保全の道を示す。アラームと懐疑論を超える注目の全米ベストセラー。

マイケル・シェンバーガー 著
藤倉 良 他2名 訳
人間環境学部人間環境学科 教授
出版社：化学同人
発行：2022年7月

※日外アソシエーツ 図書内容情報BookPlusを参照

HOSEI 3月号

令和5年3月20日発行
第50巻第2号（通巻737号）

発行 法政大学 総長室 広報課
〒102-8160
東京都千代田区富士見2-17-1
TEL.03-3264-9240

協力 法政大学後援会

企画・制作協力 (株)日経BPコンサルティング

印刷所 図書印刷(株)



法政大学生協同組合書籍部より

1年間のご利用ありがとうございました 来年度もよろしくお祈りします

2022年度も生協をご利用いただきまして、ありがとうございました。生協では書籍の取り扱いを通して、皆さんのサポートを行ってきました。勉強研究のための教科書や専門書、キャリア形成を応援する就活支援本や資格の参考書、趣味や日常生活を豊かにする雑誌や文庫など、あらゆる分野の書籍を店舗に並べてきました。お役に立ちましたでしょうか。

2023年度も生協のご利用をお待ちしております。店頭にはない書籍はお取り寄せもできますので、ご要望がありましたら店舗スタッフにお声掛けいただくか、店内の「ひとことカード」にてリクエストしてください。

最後に、卒業・修了などで法政大学を離れる皆さんにお礼を申し上げます。これまで生協をご利用いただきまして、ありがとうございました。（生協購買書籍部）



自	由	を	生	き	抜	く
実	践	知	大	賞		



2022年度（第6回）「自由を生き抜く実践知大賞」表彰式を開催しました

2022年12月17日（土）に、2022年度（第6回）「自由を生き抜く実践知大賞」表彰式を市ヶ谷キャンパスポアソナード・タワー26階スカイホールにて開催しました。

「自由を生き抜く実践知大賞」は、2016年に制定した法政大学憲章を体現する教育・研究などの実践を顕彰し、広く共有、発信することによって、大学憲章に関する理解を深め、法政大学ブランドをさらに強化、周知していくことを目的に設けたものです。このイベントは、学部や部局横断の教職員メンバーで構成される「ブランディング推進チーム」が企画・運営し、2017年度より6回目の開催となりました。今回は「コロナ禍で進歩した私たちの実践知」をテーマに募集した結果、多くの素晴らしいエントリーがあり、22件の応募の中から11件が大賞候補としてノミネートされました。

表彰式は2021年度に続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため無観客で開催し、YouTubeによるライブ配信を行ったところ、延べ515件のアクセスがありました。会場にはノミネート事例の担い手である学生・生徒・教職員が招待され、廣瀬克哉総長による最終選考を経て決定した大賞ならびに各賞（法政大学憲章や憲章に連なる本学の理念などのキーワードを冠した4賞）が発表されました。さらに、ライブ配信の視聴・参加者がオンライン投票にて選考を行い、「よき師よき友が選ぶ実践知賞」を決定しました。受賞者には表彰状と副賞が授与されました。

大賞に選ばれたホーセイノベーショングループからは「先生方や

地域の方々に支えられて活動をしてきたので、その全ての協力をたたえる賞だと思うと大変うれしいです」とコメントがありました。

廣瀬総長は全体講評として「今回も多様な取り組み事例や行動、そこに込められた思いが披露されました。社会的な制約が課せられていた日常から徐々に平常に戻っている今、私たちがやりたいことはどうしたらより良くできるのだろうと多くの人が考え、行動し始めたのだと感じています。一方、自分の心が変化に付いていけずに悩む人も増えています。今日披露された多様な素晴らしい活動が、まだ活動に乗り切れない状況にある人を元気づけ、背中を押すきっかけになれば、法政大学はより豊かな場になるでしょう。「自由を生き抜く実践知」を体現する取り組みが今後も多様に展開されること、皆さんの活動がさまざまな形で引き継がれ、新たなステップへ発展していくことを期待しています」と述べ、最後にノミネートされた全ての実践主体ごとに写真を撮影し、閉会しました。

2022年度（第6回）「自由を生き抜く実践知大賞」選定理由とエントリーした全実践事例への総長コメントは、下記の記事でも紹介しています。受賞した実践事例以外にも、「実践知」を生み出している素晴らしい事例が数多く存在しています。ぜひご覧ください。

2022年度（第6回）「自由を生き抜く実践知大賞」選定理由とエントリーした全実践事例への総長コメントを紹介いたします。



受賞取り組み一覧

受賞名	取り組み	実践主体
大賞	多摩キャンパスを盛り上げる1年間の活動	ホーセイノベーショングループ
キャンパスの課題解決賞	青バス運行アプリで多摩ライフを豊かに	情報科学部・多摩将来計画推進委員会
とらわれることなきつながり賞	つながりを創る新たなボランティアの形	法政大学ボランティアセンター学生スタッフ VSP (ボランティア支援プロジェクト)
進取の学び賞	教育プログラム開設学生サポーター制度	学生有志グループ
自立した市民賞	三者協議会	法政大学高等学校生徒会執行部
よき師よき友が選ぶ実践知賞	スポーツ活動と研究教育活動の両輪「人馬のウェルビーイング」	法政大学体育会馬術部

当日のライブ配信映像や短時間にまとめた紹介動画はこちらをご覧ください。



第6回ノミネート一覧はこちらをご覧ください。





法政

3月号

第50巻第2号 通巻737号

令和5年3月20日発行

発行 法政大学総長室広報課

新、ホセイ水!



今年で誕生から12年。
法政水は次のステージへ向けて
ラベルデザインを一新しました。
デザイン工学部の有志が集まり
ポップで、真面目で、
なんだかあどけない、
そんな愛らしさ感じる
法政水に仕立てました。
これからも法政水が
法大生のいつもの水で
ありますように。

